

平成30年5月30日

宇宙空間に関わる安全保障状況について

防衛研究所政策研究部長
橋本 靖明

1. すべての領域を用いた戦闘様相 — トップランナーとしてのアメリカ —
領域横断的に対抗勢力を凌駕する
「マルチ・ドメイン・バトル」という考え方
自国の優位確保のため各種の要素を使う
「第3のオフセット」という考え方
第1：戦術核(50年代)、第2：ISR、ステルス、精密誘導(70年代)
第3：深層学習システム、人間・機械間での協働、人間を補助する機械、
有人・無人システム連携、対サイバー・電子戦抗堪化自律システム
2. 宇宙活動への依存
先進国ほど、宇宙とサイバー両空間を高度に利用
「情報ネットワーク中心の戦争」という考え方
脆弱性を突かれるおそれ → 適時・適切な対処の必要性
3. 新しい宇宙大国の出現 — 急激に台頭する中国 —
宇宙白書 宇宙空間の平和を主張
同時に、国家安全保障のために宇宙を利用
官民一体となった大規模な宇宙開発
遠隔探査衛星、測位衛星、宇宙航空・・・衛星破壊兵器の開発、配備
4. 日本の現在と将来
安全保障利用も視野に入った現状
日本と周辺地域の安定化のために
宇宙利用のリスク 日本リスクは地域・世界共通のリスク
リスク対応 ① 回避：被害回避や局限化
② 軽減：代替化
③ 移転：被害補償
④ 容認：結果受入れ
演習の重要性、システム（ハード・ソフト）の強靱化、
代替技術(例:小型空中発射)の用意、協力による利害共有化・・・

以上

(本発表の内容は発表者個人のものです。)